

～教員おすすめ本～

No. 34

理工学部 教養・基礎教育部門

幸福 香織



『学問のすすめ』

福沢諭吉 著
伊藤正雄 校注



『現代語訳学問のすすめ』

福沢諭吉 著
伊藤正雄 訳

【先生からのコメント】

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」

福沢諭吉『学問のすすめ』の冒頭は有名で、みなさん周知のことと思います。でも、その後はどうでしょうか？

新入生は、小中高までの勉強とちがい、大学の「学問」に戸惑うことも多いでしょう。また、入学して一年二年があつという間に過ぎて「学問とはなんぞや」と感じている上級生にも読んでもらいたいと思います。

最終章の「人望論」を少し紹介しますと、人望とは「ただその人の才智の働きと正直なる本心の特技とをもってしだいに積んで得べきものなり」といい、第一に「言語を学ばざるべからず」、第二に「顔色容貌を快くして、一見、直ちに人に厭われることなきを要す」、第三に「人に交わらんとするには、ただに旧友を忘れざるのみならず、兼ねてまた新友を求めざるべからず」と薦めます。交際の要は「人類多しといえども、鬼にもあらず蛇にもあらず、ことさらに我を害せんとする悪敵はなきものなり。恐れはばかることなく、心事を丸出しにして、さっさと応接すべし」といいます。言い得て妙ですね。今時、ネットによる交際には鬼や蛇が出る危険も。そちらは避けて、ゼミやクラブで多くの人と知り合い、ゆたかな学生生活を過ごしてほしいと思います。文語が読みにくい人は、現代語訳や漫画も多数出ています。今から150年近くも前に書かれたのに、古くならない文章です。

2019年10月11日
近畿大学中央図書館